資料６－１

情 報 通 信 審 議 会　情 報 通 信 技 術 分 科 会
携帯電話等高度化委員会（第５回）　議事要旨(案)

１　日時
平成23年11月11日（金）16:00～17:00

２　場所
総務省　８階　第１特別会議室

３　出席者（敬称略）
委員会構成員（委員・専門委員）：

服部　武　　上智大学
安藤　真　　東京工業大学大学院
石原　弘　　ソフトバンクモバイル(株)
伊東　晋　　東京理科大学
入江　恵　　(株)ＮＴＴドコモ
冲中　秀夫　ＫＤＤＩ(株)
小畑　至弘　イー・アクセス(株)
黒田　道子　東京工科大学
笹瀬　巌　　慶應義塾大学
高田　潤一　東京工業大学大学院
本多　美雄　欧州ビジネス協会
湧口　清隆　相模女子大学
吉村　直子　(独)情報通信研究機構

委員会が必要と認める者：
伊藤　泰成　ＵＱコミュニケーションズ(株)
大川　努　　(一社)情報通信ネットワーク産業協会
金辺　重彦　地域ＷｉＭＡＸ推進協議会
佐野　弘和　Wireless City Planning(株)
中村　光則　(株)フジクラ
古川　憲志　(株)ＮＴＴドコモ

事務局：
総務省　総合通信基盤局　移動通信課長　田原、同課　課長補佐　中越、同課　第二技術係長　松元

４　配布資料

資料番号	配布資料	提出元
資料５－１	携帯電話等高度化委員会(第４回)議事要旨(案)	事務局
資料５－２	「広帯域移動無線アクセスシステムの高度化に関する技術的条件」についての関係者からの意見聴取	事務局
資料５－３	2.5GHz帯干渉検討進捗状況	ＵＱコミュニケーションズほか
資料５－４	2.5GHz帯における周波数の分配と割当状況及び干渉検討の組合せ	事務局
資料５－５	700/900MHz帯干渉検討進捗状況	ＮＴＴドコモほか
資料５－６	700/900MHz帯における干渉検討の状況	事務局
資料５－７	「2GHz帯（2010-2025MHz）TDD方式の移動通信システムに係る技術的検討の在り方」についての意見募集の結果	事務局
資料５－８	2GHz帯TDD方式の移動通信システムに係る技術的検討の在り方に関する意見	ＮＴＴドコモ
資料５－９	2GHz帯（2010-2025MHz）TDD方式の 移動通信システムに係る技術的検討の在り方について（意見）	情報通信ネットワーク産業協会
資料５-10	当面のスケジュール（案）	事務局
参考１	携帯電話等高度化委員会　構成員	事務局
参考２	700/900MHz帯移動通信システム作業班　構成員	事務局
参考３	BWA高度化検討作業班　構成員	事務局
参考４	2GHz帯（2010-2025MHz）TDD方式の移動通信システムについて	事務局

５　議事概要

（１）前回議事要旨等について

前回（第４回）議事要旨(資料５－１)は委員に事前に送付されていることから、読み上げは省略して配布のみとし、気づきの点があれば、11/17(木)までに事務局まで知らせることとなった。（その後、修正意見等は特になかった。）

（２）関係者からの意見聴取について

事務局から資料５－２に基づき、平成23年10月17日から同年11月7日まで意見陳述を希望する者の募集を実施した結果、申出は無かった旨の説明があった。

（３）干渉検討の進捗状況について

ア　2.5GHz帯の干渉検討の進捗状況について

事務局から資料５－３及び資料５－４に基づき、2.5GHz帯の干渉検討の進捗状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

服 部 主 査：資料５－３の⑧にある「モデル０」とはどのようなモデルを指しているのか。

中　村　氏：いわゆる高利得FWAではなく、モバイルWiMAXと同様のモデルである。

イ　700/900MHz帯の干渉検討の干渉検討の進捗状況について

事務局から資料５－５及び資料５－６に基づき、700/900MHz帯の干渉検討の進捗状況について説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

小畑専門委員：携帯電話の周波数は逼迫してきているため、700MHz帯については帯域の確保という観点から検討を進めるべきと考える。事業者として30MHz幅のペアが取れるようにと考えている。隣接システムとの検討は厳しいと思うが、引き続き検討をお願いしたい。

本多専門委員：3GPPでも700MHz帯の検討が進んでおり、テクニカルレポートの中には日本の割当ての考えも含まれている。日本の割当てが3GPPに取り入れられればと思っている。

事　務　局：700MHz帯については時機を逸しないようにと考えており、一つの目標として、年内を目指して作業を進めている。

服 部 主 査：現状の割当て案は並行して検討していくことになるのか。

事　務　局：４つの割当検討モデルを元に干渉検討を進めてきており、現在想定されている割当てパターンについては網羅できていると思っている。年内を目標に当委員会でのとりまとめ案を出せればと考えている。

服 部 主 査：12月まではもう間もないが、現状で難題等はあるのか。

事　務　局：各アドホックの中で意識合わせを行っているため、事務局が把握している範囲ではそのような認識はない。

（４）意見募集の結果について

事務局から資料５－７及び参考４に基づき、意見募集の結果について説明があり、続けて

入江構成員及び情報通信ネットワーク産業協会　大川氏より、それぞれ資料５−８及び資料５−９に基づき説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

服 部 主 査：この帯域はTDD用としての帯域になっているが、モバイルWiMAXは世界的な共通バンドがないためこの帯域は使いにくいということなのか。

小畑専門委員：ヨーロッパを中心にこの帯域はTDDとして割り当てられているが、端末の作り込み等の技術的にFDDと同時に実装するのが難しいため利用が遅れているのではないかと思っている。入江専門委員からの説明にもあったMSSバンドの方が使いやすいと考えているところが多いのでないだろうか。

服 部 主 査：MSSバンドは移動衛星業務で割り当てられており、仮に当該帯域を地上系で使うのであれば方針の変更などが必要になると思われる。TDDとFDDのLTEは親和性が高く、コアチップについては両方インプリメントすることも可能であり、ハードウェアの面については状況が変わってきていると思われる。そのような状況中でもこの15MHz幅のバンドが未利用となっている。

本多専門委員：資料５−９についてのコメントだが、技術の面ではE-UTRAやモバイルWiMAXなどであれば世界的にハーモナイズできており望ましいものと考えているが、このバンドをうまく活用できている国はないと思っている。今後、諸外国がどのような動向を示すかわからない状況なので、もう少し様子を見るのがいいのではないか。また、当該帯域には計７つのシステムが制度化されているが、特段、制度上で特定の技術方式を削る必要はないのではないか。

事　務　局：７つの技術方式が制度化されており、事業者がそこから選択するものと考えている。情報通信ネットワーク産業協会の意見が、特定の技術方式を削るべきという意見でないのであれば現状のままでいいのではないか。仮に、MSSバンドの議論が始まった場合などには、必要な技術方式のみ検討すればいいのではないかと思っている。

服 部 主 査：当面は現状のままで、希望があれば検討を進めていくことになるだろう。MSSバンドについては別の議題での議論が必要になると思うが、そのトリガーはいつ頃になるのか。

事　務　局：具体的に決まっているわけではないが、3GPPや隣国の動向などを事務局で把握しながら、必要に応じて審議会の場で議論をお願いすることになると思う。

服 部 主 査：TDDの利用に関するインセンティブについて中国は国家戦略として取り扱っている。日本では、PHSから始まりWiMAXなどの先進的な技術を利用しているが、今後帯域が少なくなる中で、国としてインセンティブを考えるなどして、世界的に技術をリードして欲しいと思っている。

（５）当面のスケジュールについて

事務局から資料５-10に基づき、当面のスケジュールについての説明があり、その後次のとおり質疑応答があった。

湧口専門委員：700MHz帯の検討結果とりまとめ案については年明けを目処にパブリックコメントを募集するのか。

事　務　局：12月19日の委員会で委員会報告案を取りまとめた後、年明けを目処にパブリックコメントの募集を開始したいと考えている。

（６）その他

事務局から、700/900MHz帯移動通信システム作業班及びBWA高度化検討作業班にそれぞれ主任代理を置くことが服部主査から既に承認され、吉村専門委員が両作業班の主任代理及び作業班構成員に指名されたことについて説明があった。また、次回会合は12月２日(金)16時00分から開催される旨の連絡があった。

以上